

1年F組音楽科学習指導案

- 1 題材名 場面に合わせて日本らしい音楽をつくろう
教材名 『しょうじょう寺の狸ばやし』（千葉県むかしばなし・童謡）

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

A 表現 (3) イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。

〔共通事項〕 ア (ア) リズム 旋律 構成

(1) 題材観

今日、NHKの「にほんごであそぼう」や「和風」「わもの」などと銘打った番組など、メディアが若い世代を意識して伝統文化を取り上げ、また新学習指導要領が平成29年3月に告示されてからより一層、学校での伝統音楽教育のカリキュラムの充実が求められるようになった。

本題材は学習指導要領のA表現の内容(3)イの「表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。」に関する学習内容である。前題材での民謡の特徴を理解する鑑賞活動を通して、本題材では我が国の様々な民謡に基づく日本の音階について理解し、テーマに合った表現したいイメージになるように、その音階を用いて表現の工夫ができるようにすることをねらいとしている。

そして、日本の音階を用いて決められたフレーズを創作するのではなく、音の重なり方や反復、変化、対照などの構成を理解することによって、よりイメージに合った創作、一人一人の思いを大切に表現の工夫ができる適切な題材と考え設定した。

本校の研究主題「豊かなコミュニケーション能力を身につけた生徒の育成～対話的な学びを通して～」を受けて、音楽科として「主体的に表現する能力を身につけた生徒の育成」を研究主題に設定した。「主体的に表現する能力」をイメージに合った旋律を創作し演奏することで、また「対話的な学び」をペアで表現の工夫を図りながら創作することで、主題にせまることができると考えた。

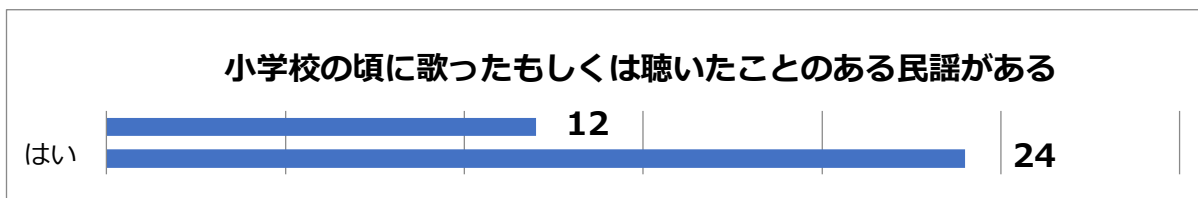
生徒はこれまでに学習した、アルトリコーダーのグループ合奏を経て、旋律の抑揚を感じながら、曲想に応じて思いや意図をもって表現を工夫する姿が見られるようになってきた。しかし、グループ合奏では一人一人の考えというよりも、リーダーが中心になって表現の工夫を進めていた。そこで、この題材を通して、日本の音階を使って、場面にあった一人一人のイメージに合うように旋律を創作し、表現できるようにさせたいと考え、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態

本時の授業を展開するにあたって日本音楽に関する関心、共通事項を知っているかアンケートを実施した。結果は以下の通りである。(調査人数36人)

① 日本の民謡と言われて思い浮かぶ歌

- ・ソーラン節 (28人) ・大漁節 (3人) ・よさこい節 (2人) ・エイサー (2人)
- ・君が代 (6人) ・ふるさと (2人) ・さくら (1人)

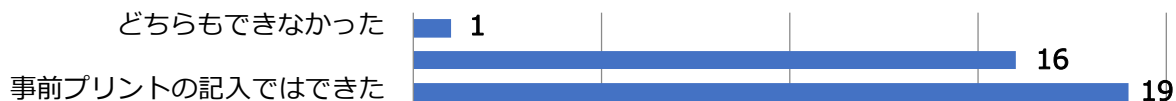


→クラスの半数以上の生徒が小学校の頃に民謡を歌ったこと、もしくは聞いたことがあるようだが、経験がない生徒も多数いるため、日本音楽に親しむ機会が必要である。

② 歌ったもしくは聞いたことのある曲として

- ・ソーラン節 ・よさこい節 ・大漁節 →導入段階でこれらの曲を扱う。

③ 「『オーラリー』をアルトリコーダーで発表しよう」の授業では、曲想に合った演奏方法になるように工夫することができましたか。



→自分の知っている知識や教科書を参考に、『オーラリー』の曲想に合う音楽記号をプリントに記入し言葉で表現することはほとんどの生徒ができていたようだった。一方で、プリントに記載した工夫を実際の発表では表現することができなかつたと感じた生徒も多数いたことがわかった。

④ 「『オーラリー』をアルトリコーダーで発表しよう」の授業では、班の人と協力して曲想に合った演奏方法になるように工夫することができましたか。



⑤ 「『オーラリー』をアルトリコーダーで発表しよう」の授業では、個人の考えを班の人に伝えることができましたか。



→④のアンケートの結果から学級のほとんどの生徒が、班の人と協力することはできていたと感じていることがわかった。しかし、⑤の結果から自分の考えを班の人に伝えられた生徒はやや少なく、一人一人が自分の思いや意図をもって、表現することができていなかったこともわかった。

<考察>

アンケート結果から、民謡についてあまり知らないことがわかる。その中でも『ソーラン節』は多くの生徒が聴いたことがあると答えていた。

『オーラリー』をアルトリコーダーで発表しよう』についての質問では、事前プリントに曲想に合った表現の工夫は音楽記号を用いて記入することができたと答えていた。しかし、記入したことを実際に演奏して表現できた生徒はやや少なかった。班の人と協力できていたかの質問に対してはほとんどの生徒ができていたと答えている。一方、個人の考えを班の人に伝えることができていたと感じている生徒は少なく、周りに意見を合わせながら表現の工夫をしていたことがわかった。

そこで、前題材では、『ソーラン節』『大漁節』など、小学校で鑑賞した曲も取り上げることで、民謡への親しみを感じられるようにしたい。また、五音音階の「日本らしい」美しい響きを感じ取りながら民謡を鑑賞し、感じ取ったことや気付いたことを本題材の創作活動に生かしていくことで、一人一人の思いを表現できるように導いていきたい。

(3) 指導観

前題材の学習では、民謡音階の『ソーラン節』『大漁節』、都節音階の『郡上節』、沖縄音階の『谷茶前』を鑑賞している。また、お題で出された「大漁」のイメージを民謡音階のラ・ド・レ・ミ・ソ・ラの中から好きな音を選んで、短い旋律で創作し、つくった旋律をキーボードもしくはアルトリコーダーで演奏する活動を行っている。

千葉県むかしばなし『しょうじょう寺の狸ばやし』の一場面を紙芝居で見せ、ペアで和尚さんと狸が腹鼓合戦をしている場面を想像する。まず、それぞれ2小節で和尚さんのテーマ(動機)、狸のテーマ(動機)をつくる。その時にどの生徒でも創作に自主的に取り組めるよう、予め用意された5つのリズムパターンから登場人物のイメージに近いものを選び、民謡音階のラ・ド・レ・ミ・ソ・ラの中から好きな音を選んで創作できるように留意したい。次に、ペアで、8小節の音楽をつくる。単に2小節間のフレーズを交互に演奏するのではなく、動機を繰り返したり(反復)、「問いと答え」のようにしたり、音を重ねたり(変化)、テーマを対照的な旋律で表現したり(対照)して、以前の題材で学習した一人一人が思いや意図をもって創作する活動の発展的な内容にしていきたい。また出来上がった旋律を個人、ペア、学級で演奏活動を通して、他のよさに気付かせ、今後の表現活動に対する意欲に繋げていきたい。そして、道徳のC- (16)「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」と関連づけて指導していきたい。

3 題材の目標

- 民謡の特徴に関心をもち、音楽をつくる学習に主体的に取り組む。
- 民謡音階の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、反復、変化、対照などの構成を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- 民謡音階の特徴、反復、変化、対照などの構成を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて音楽をつくる。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽の表現の創意工夫	音楽表現の技能
民謡の特徴に関心を持ち、音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	民謡音階の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽で表現したいイメージを持ち、反復、変化、対照などの構成を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	民謡音階の特徴、反復、変化、対照などの構成を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて音楽をつくっている。

5 研究の視点について

【視点1】 9年間を見通した学び方の共有

民謡については、小学校4年生で学習している。今回取り扱う『ソーラン節』『郡上節』『谷茶前』『大漁節』も全て小学校の鑑賞教材に含まれている曲である。再度学習する生徒に対しては、より日本音楽に親しませて、日本の伝統に関心をもたせるようにしたい。

また、旋律づくりについては、小学校低学年から継続的に学習してきた。小学校2年生では、「なべ なべ そこ ぬけ」に合わせて短い伴奏をつくる「ばんそうあそび」、小学校中学年では、「ラドレ」の3音や「ミソラドレ」の5音から音を選び、お囃子の旋律づくりを経験している。また、5年生では、旋律の音の動き方や終止音などを考え、2小節の構成を工夫しながら五音音階での旋律づくりを、6年生では、和音の構成音での旋律づくりを行っている。このように、小学校では、楽しみながら様々な日本の音楽に親しむ音楽づくりの学習を経験している。中学校では、自分の作品や級友の作品に対して、どのような思いでつくったのか、どのような考えでこの音を選んだのかなど、作品に対する自分なりの明確な思いや意図を楽しみながら表現し合うことで、さらに表現力の向上へと繋げていきたいと考えている。

1年生の導入では自分の名前と好きなものをリズムで自己紹介する創作活動を行い、小学校で既習した知識技能を用いたことで、抵抗感なく学習に取り組めるようにした。また中学2年生では『勸進帳』を鑑賞し、今回触れられなかった歌詞の抑揚を感じ取り表現し、創作する活動は長唄を用いて行いたい。中学3年生では、国語の既習の俳句を使って、言葉のイントネーションを手掛かりに音楽をつくるなど、様々な旋律創作の学習へと繋げていきたいと考えている。

＜小学校中学年から中学校3年生までの日本の音楽に関する主な教材＞

小（中）	小（高）	中1	中2、3
<ul style="list-style-type: none"> ・古謡『さくらさくら』 ・民謡『こきりこ』『ソーラン節』『南部牛追い歌』 ・ラドレの音で旋律づくり（3年） ・ミソラドレの音で旋律づくり（4年） 	<ul style="list-style-type: none"> ・箏・尺八『春の海』 ・日本音階『こもりうた』 ・日本古謡『越天楽今様』 ・雅楽『越天楽』から ・音階の音（ミファラシド）で旋律づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・民謡『ソーラン節』 ・箏曲『六段の調べ』 ・尺八『巢鶴鈴慕』 	<ul style="list-style-type: none"> ・長唄・歌舞伎『勸進帳』 ・文楽『新版歌祭文』“野崎村の段”から ・雅楽『越天楽』 ・能『羽衣』から

6 題材の指導計画及び評価計画（2時間扱い）

時	○学習内容・主な学習活動	評価規準
1 〔本時〕	<p>ねらい 民謡音階の特徴を知覚・感受しながら、反復、変化、対照などの構成を工夫し、表現したいイメージにふさわしい音楽をつくる。</p> <p>○民謡音階の音の確認をする。 ・「大漁節」の1番を歌唱し、音階の響きを感じ取る。</p> <p>○表現したいイメージにふさわしい旋律をつくる。 ・『しょうじょう寺の狸ばやし』の一場面を紙芝居で見て場面を想像する。 ・ペアで分担して登場人物のイメージに合った動機をつくり、ワークシートに記入する。</p> <p>○できた旋律を個人で演奏する。 ○民謡音階の特徴を生かし、構成などを工夫してまとまりのある音楽をつくる。 ・自分のつくった音楽の創作意図をワークシートに記入する。 ・旋律やリズムを工夫したり、構成を工夫したりしてまとまりのある音楽にする。 ○ペアで演奏する。</p>	<p>民謡音階の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽で表現したいイメージをもち、反復、変化、対照などの構成を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <p>（音楽の表現の創意工夫）</p>
2	<p>ねらい 民謡音階の特徴を知覚・感受しながら、反復、変化、対照などの構成を工夫し、音楽表現をするために必要な技能を身に付けて、表現したいイメージにふさわしい音楽をつくる。</p> <p>○前時でつくった旋律をペアで確認する。 ・反復、変化、対照などの構成を生かして、自分達のイメージにあった音楽になるように工夫する。</p> <p>○学級で発表する。 ・ワークシートに他の発表の工夫点、良いところを記入する。</p> <p>○童謡『しょうじょう寺の狸ばやし』を鑑賞、歌唱し民謡音階のつくりを再確認する。 ○活動の振り返りをする。</p>	<p>民謡の特徴に関心をもち、音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>（関心・意欲・態度）</p> <p>民謡音階の特徴、反復、変化、対照などの構成を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて音楽をつくっている。</p> <p>（音楽表現の技能）</p>

7 本時の学習（1／2）

（1）本時の目標

- 民謡音階の特徴を知覚・感受しながら、反復、変化、対照などの構成を工夫し、表現したいイメージにふさわしい音楽をつくる。

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準(評価方法)
3分	<p>1 民謡音階の音の確認をする。 (本授業で使用する音は<u>ラ</u>・ド・レ・ミ・ソ・ラ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大漁節」の1番を全員で歌唱し、音階の響きを感じ取る。 ・民謡音階のつくりを前題材で使ったプリントを見て思い出す。 <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○教師のかかわり ◆評価規準(評価方法)</p> <p>○ピアノで伴奏を弾いて、「大漁節」を歌唱させる。</p> <p>○ファイルを開かせて、日本民謡の鑑賞の授業で使用したページを見させる。</p> <p>○民謡音階のつくりを確認できるよう、マグネットを貼る。</p> <p>○本時のめあてを提示する。</p>
『しょうじょう寺の狸ばやし』の場面に合わせた音楽をつくろう		
5分	<p>3 紙芝居で「しょうじょう寺の狸ばやし」の狸と和尚さんが腹叩き合戦をしている場面を見て、どのような様子か想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなふうか腹叩き合戦をしているかを話し合いワークシートに記入する。(前題材と同じペア) 	<p>○童謡「証城寺の狸囃子」を流し、これから見せる一場面とつながりがあることを伝える。</p> <p>○千葉県のお話「しょうじょう寺の狸ばやし」のある場面の絵(登場人物2人)を見せ、簡単にあらすじを話す。</p> <p>○紙芝居を拡大したものを、テレビ画面にも映す。</p> <p>○ワークシート2, 3を配る。</p>
15分	<p>4 表現したいイメージにふさわしい旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で創作を行う手順を理解する。 <div data-bbox="306 1626 855 1792" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>創作の手順(個人でつくろう♪編)</p> <p>①ペアで分担して、狸のテーマ(動機)、和尚さんのテーマ(動機)をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の感情に合った音の高さを選ぶ。 ・登場人物の感情に合ったリズム(音符の数、音符の変化)を選ぶ。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の狸と和尚さんをどちらが担当するかペアで話し合って決める。 ・狸と和尚さんのセリフを記入する。(ワークシート2) 	<p>○活動に見通しをもてるよう、創作のポイントが確認できる「創作の手順」を掲示する。</p> <p>○狸と和尚さんの担当を決めるように声をかける。</p> <p>○場面絵の吹き出しにそれぞれの感情をイメージして書くように伝える。</p>

17 分	<ul style="list-style-type: none"> ・①～④のリズムを全員で歌い、リズムを理解する。(ワークシート3) ・ワークシート3の①～④の4つのリズムパターンからイメージに合ったリズムを1つ選択する。 ・選んだリズムに民謡音階の構成音を1つずつ選び、イメージにあった登場人物の動機を2小節つくり、ワークシートに記入する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[予想される生徒の考え]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狸は何としてでも和尚さんに勝ちたい思いが強いため、細かい音符。 ・狸は気性が荒いため音の高低の変化が激しい。 ・和尚さんは落ち着いているため音の高低の差があまりない。 ・和尚さんは落ち着いているため音符の数が少ない。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・できあがった動機をキーボードかアルトリコーダーで演奏する。 ・個人の作品を発表する。 <p>5 ペアで創作を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで創作を行う手順を理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>創作の手順 (ペアでつくろう編)</p> <p>②想像した場面に合わせて2人の音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動機を繰り返したり(反復)、変化させたり、動機と異なる対照的な旋律を入れたりして、工夫する。 ・「何回反復させたらイメージ通りになるか」など考えて、話し合いながら工夫する。 ・旋律は、「問いと答え」のようにしたり、重ねたり、色々な工夫をする。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○木魚でテンポを示し、4つのリズムパターンを歌う。 ○イメージに合ったリズムがない場合や、ヒントなしで挑戦したい場合は、ワークシートの五線に直接書いてよいことを伝える。 ○机間指導し、記入することが難しい生徒に助言する。 <ul style="list-style-type: none"> ○演奏してイメージ通りの音楽でなかった場合はワークシートの内容を書き換えてもよいことを伝える。 ○発表したい生徒、もしくは机間指導した様子から、全体に発表してもらおう生徒を指名する。 ○友達の発表を聴いて書き換えてもよいことを伝える。 ○修正したい生徒用のプリントを用意する。 <ul style="list-style-type: none"> ○活動に見通しがもてるよう、創作のポイントが確認できる「創作の手順」を掲示する。
---------	---	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで話し合いながら、それぞれのつくった2小節の動機を組み合わせて8小節の音楽にする。 ・最初にワークシートに記入した表現したいイメージに合うような音楽になるように、ペアで話し合う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〔予想される生徒の考え〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狸と和尚さんが会話しているように交互にする。 ・狸は和尚さんの演奏が待てず、割り込むように音を重ねて入ってくる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合った内容が表現できるようにペアで演奏する。 	<p>○動機を用いて、構成を工夫し、まとまりのある音楽にするように指示する。</p> <p>○想像した場面に合うようにワークシートを見ながら確認し、話し合うように声をかける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆民謡音階の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽で表現したいイメージを持ち、反復、変化、対照などの構成を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 (音楽表現の創意工夫) <観察・ワークシート></p> </div> <p>○つくり終わったペアには、工夫したところ、作品への思いを記述するように伝える。</p> <p>○発表したいペア、もしくは机間指導した様子から、全体に発表してもらおうペアを指名する。</p> <p>○友達の発表を聴いて次時で構成を変えてもよいことを伝える。</p> <p>○本時のまとめを行う。</p> <p>○次回の内容を提示し、目標を記入させる。</p>
5分	6	できたところまでの音楽を発表する。
5分	7	授業の振り返りを行う。 ・ワークシートに本時の振り返りと次時の目標を記入する。